

事業概要書

事業名	交流図書室おはなしサロン事業				
開始日	2022年5月17日	終了日	2023年4月30日	日数	349日
団体名	特定非営利活動法人おはなしころりん				
(カウンターパート)	大船渡市立図書館、大船渡市教育委員会				
担当者名	江刺由紀子	スタッフ人数	5人		

事業費総額(税込)	2,710,617円
CF事業枠	1,700,000円
その他資金	1,010,617円

事業目的	長期化するコロナによるストレスや外出自粛によって希薄化する人間関係など、深刻化するコロナ禍社会における閉塞感・孤独感を解消するため、地域住民が交流する場としておはなしサロンを開放し、本を通じた世代間交流を促進することで、人と人とのつながりを感じながら安心して過ごせる居場所を作る。
事業全体の概要	<p>●おはなしころりんとは</p> <p>子どもが読書を楽しむことで、しなやかで力強い成長がなされるよう平成15年7月に任意団体を設立。大船渡市を中心に子どもへの絵本の読み聞かせ等を行う。「スローガンは”本でつながろう 本で心をそだてよう みんないっしょに”」。東日本大震災後には避難所での読み聞かせに始まり、仮設住宅団地・災害公営住宅団地・地域集会所等を訪問。子どもへの絵本の読み聞かせや貸出のほか、地域住民へ読み聞かせ講座や参加者と子どもの交流、お茶会などを行う「やってみっぺし読み聞かせ」活動を継続。平成28年7月にNPO法人化。地域団体・施設への絵本や児童書の貸出、地域交流図書室おはなしサロン運営のほか、地元ラジオ局での朗読番組、東南アジアに絵本を送る活動を行ってきた。陸前高田市など近隣の沿岸地域でも活動し、現在は防災活動や住民交流の場である大船渡市防災観光交流センター2階を管理・運営。防災ワークショップやイベント等も行っている。2021年度にはシビックフォースとの協働事業で「移動こども図書館と交流図書室おはなしサロン事業」を実施した。</p> <p>●取り組むべき課題</p> <p>2011年の東日本大震災直後から復興支援活動を継続しておこない、2015年には住民が集える居場所の必要性から交流図書室おはなしサロンを開設した。当初は、津波被害で分断された住民をつなぐ場として地元で認知され、年を重ねるごとに地域に根付いていったが、新型コロナウイルス感染症に対応した県独自の緊急事態宣言を受け、一時閉所するなど状況を踏まえながら活動を続けてきた。その結果、令和2年には前年度に比べ減少していた大人の利用者が、令和3年には再び増加したことが利用</p>

者数・貸し出し冊数の統計データ（※添付資料 1）より見えて来た。このデータから、コロナ禍で自宅で過ごす時間をより有意義なものにするためのツールとして本を求めている人、そして、コロナによって減ってしまった「人と関わる場」を求めている人（特に高齢者）が増えていることが読み取れる。

ところが、現状、コロナ禍において学校の行事や地域ベントの中止を始め、外出など住民の行動が制限され、特に高齢者の孤立が深刻化する一方で、コロナの収束も見通せず、不安感が増すばかりである。

また、去る 2022 年 3 月 16 日に発生した福島県沖地震で、当交流図書室おはなしサロンが被害を被るところとなり、その結果、3 週間は完全閉室せざるを得なかった。この間、利用者からは自分事のような心配や多くの励ましの声が寄せられ、195 人から支援金が届けられた。この反応は、コロナ禍の社会にこそ人のつながりが実感できる場の重要性が裏付けられた結果であると捉えている。感染拡大の防止対策をしっかりとおこないながら、新たなつながりや交流の機会を創出する交流図書室おはなしサロンの意義を深めていきたい。

併せて、この活動を継続していくために、財源の確保についての取り組みも積極的におこなっていく。昨年設置した資金調達特別チームの動きをより活発化させるとともに、地域の企業に寄付金支援を呼びかけるなど、資金的な自立を目指す。

●パートナー協働プログラム対象事業

①地域交流図書室おはなしサロン

- ・毎週 4 日間（月火金土）午前 10 時から午後 3 時までのコロナ対策時短開室。開室前と後の 30 分ずつで室内アルコール消毒、入り口に手指消毒装置の設置、換気。
- ・「いわての復興教育：いきる・かかわる・そなえる」につながる絵本や児童書を中心に選書・配架・企画展示・読み聞かせ・おはなしころりん新聞掲示
- ・「いわての復興教育絵本：てとてをつないで」の手作り大型絵本制作
- ・図書の間覧と貸出（ひとり 1 日 3 冊まで、返却期限は定めない、返却場所は市立図書館や地区公民館など複数の公共施設で可能）
- ・個人対象の絵本の読み聞かせ、集団へのおはなし会開催
- ・季節に応じた企画展示
- ・地元新聞連載「絵本の世界」紹介の絵本展示
- ・おすすめ本紹介などを内容とした「おはなしころりん新聞」作成と掲示
- ・お茶会やイベントなど交流活動

②財源確保に向けての活動

【F チーム活動】

昨年度立ち上げた F チーム(ファンディングについて考え実行する特別プロジェクトチーム)は、毎月のミーティングと具体的な活動の実施により、規模は小さいが成功体験を重ねてきた。その自信を励みに、今年度は発展形に挑戦する。具体的には、株式

会社バリューブックスがおこなっている「本で寄付するチャリボン」への登録と、本寄贈の呼びかけ等。このチームで後継者育成にも取り組み、継続的な事業運営へと繋げる。

【資金調達計画の作成と実行】

具体的な資金調達活動としては、税制上の優遇措置があることで寄付金を集めやすくなる体制、つまり認定 NPO 法人へのステップアップに挑む。条件のひとつ、正会員 100 人以上については、1 月下旬に 44 人であった人数を 4 月末には 123 人に増やすことに成功した。今後も増やしていく計画である。また、企業や団体に積極的働きかけをおこない、寄付金を確実に増やしていく。

●期待される効果

①地域交流図書室おはなしサロン

- ・コロナ禍にあっても、本を間に子どもも大人も楽しみくつろげる空間を提供。地域住民が交流し、住民同士が新たな関係を構築することで精神的な拠り所となる場を創出し、地域コミュニティの充実につながる。
- ・子どもにとって、本を身近に置いた学びの場であるとともに、地域住民に見守られる安心感に包まれた場となり、健やかな成長が期待される。
- ・隣同士、商店街の方々と協力してイベント等をおこなうことで、地域の連帯感を高め、地域活性化に貢献する。
- ・子どもも住民も「いわての復興教育」に理解を示し、その必要性から協力の意思が芽生え、弊団体の活動に参加するだけでなく、サポート側にまわっていく。

②財源確保に向けての活動

・東日本大震災後に必要な事業として地域の賛同を得ながら定着してきた交流図書室おはなしサロン事業。復旧、復興、コロナ禍と変化する社会において、これからはますます行政・教育機関・NPO・地域住民がつながって子どもを育む必要があり、岩手独自の「いわての復興教育」をキーワードにつながりを強化させるフェーズである。財源の確保で期待されるのは、コロナ禍においても当事業が継続できること。資金調達の活動をおこなうことは、同時に発信の活発化にむすびつき、そこから未知のつながりをも期待できると考える。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
① 地域交流図書室おはなしサロン	大船渡市また近隣地域の 1137 人 (子ども、保護者、地域住民) ←R3 来室者実績数

②財源確保に向けての活動	大船渡市また近隣地域の 1137 人（子ども、保護者、地域住民） ←R3 来室者実績数
--------------	--